

# 介護施設の中間管理職講座で養成

小樽商科大学は、介護施設で働く中間管理職を養成する求職者向け講座「介護ミドルマネジャー育成プログラム」を、9月にも開講する。介護の技術や福祉制度だけでなく、マーケティングや会計なども併せて学べるのが特徴。樽商大はすでに医療・健康分野での社会人向け教育に取り組んでおり「介護分野でもビジネス視点を持った学びの場を提供したい」と話している。

新型コロナウイルスの影響で失業した人や希望する就職ができていない若者を対象に、大学が職業教育を行う文科省の「大学リカレント教育推進事業」の一環。履修期間は2カ月間で、8月に道

## 樽商大 求職者向け9月にも開講

内の公共職業安定所（ハローワーク）を通して募集を始め、9、10、11月に10人ずつ、計30人の受講者を受け入れる予定だ。

内容は①経営学（マーケティング、企業会計、CSR、SDGsなど30時間）②介護経営（介護福祉の理念や制度の変遷など25時間）③ケアマネジメント実習（介護技術の習得と倫理観の醸成など6時間）④最終審査（3時間）。全8科目64時間で構成する。

感染対策のため授業は全てオンラインで実施する。対面での教育が基本とされる介護技術についても、仮想現実（VR）を用いた実習を計画している。

## 経営や会計学、VR実習も

同校は20年度から、ヘルスケア分野で経営戦略や新規事業創出を学ぶ社会人向け講座「ヘルスケア×マネジメントコース」を開講。今回のプログラムでは、この講義を編集した動画に加え、藤原健祐准教授（保健科学）や介護関連企業「さくらコミュニケーションサービス」（札幌）が新たに講義の映像を制作する。

藤原准教授は「医療や介護は数少ない成長市場で、人材の育成が急がれる」と強調。文科省の事業が終了する22年度以降は、求職者に限らず、介護分野で働く人のキャリアアップにつながる社会人向けプログラムを計画している。（有田麻子）